

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 「人文学の幅広い教養」と専門的知識のバランスの良い習得を向上させる。	→複数分野専攻制（Multidisciplinary Studies : MDS）および文学内副専攻の履修者数および修了者数	B
2. 学位授与の基準を向上させる。	→文学部GPA分布	D
3. 卒業生の進路決定率を上げる。	→本学キャリアセンターによる進路調査データにおける就職決定率、大学院進学率	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

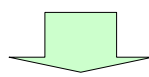
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	<p>(方針) 複数分野専攻制（Multidisciplinary Studies : MDS）および文学内副専攻の履修者数および修了者数を確認しつつ「人文学の幅広い教養」と専門的知識のバランスの良い習得を向上させる。</p> <p>(現状説明) MDSについては2007年度卒業生では履修者16名（うち修了者3名）、2008年度22名（同7名）、2009年度39名（同12名）というように履修者数、修了者数ともに確実に増加している。他方で文学部内副専攻については2007年度では履修者144名（うち修了者99名）、2008年度134名（同87名）、2009年度128名（同79名）というように履修者数、修了者数ともに減少している。</p>
☆	<p>(現状説明) 4年生全員の卒業時における「平均学年GPA」を見てみると、2007年度は2.32、2008年度は2.26、2009年度は2.16というように年々低下する傾向にある。進路決定率については経済不況のためか就職も進学もしていない者が例年よりも若干高率となっている（2007年度＝13.3%、2008年度＝10.9%、2009年度＝17.3%）。</p>
☆	その他

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	MDSの履修者数および修了者数。
★小項目6.4.2	
その他	



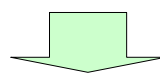
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.4.1	学部生に対するMDS制度の周知徹底を図る。
★小項目6.4.2	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.4.1	文学部内副専攻の履修者数および修了者数。
★小項目6.4.2	GPAの数値の低下傾向。進路決定率の低下傾向。
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.4.1	文学部内副専攻については減少傾向が生じている要因を確認し、改めて学部内で学生に履修を呼び掛ける。
★小項目6.4.2	まずはGPAの数値が低下してきた要因の解明を行い、その上で改善方策を考える必要がある。なお全学的組織である教育活性化部会においてGPAの算出方法などをめぐる再検討も行われる予定であり、そうした動向も踏まえながらGPAの運用について検討していきたい。進路決定率の低下についてはキャリアセンターとの連携の一層の強化などによって改善したい。
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	目標3で設定した「進路決定率」はこの項目における目標としては妥当性を欠いている可能性が高い。むしろ本学部における学位授与という点では卒業論文の単位取得をめぐる基準の適正化のような目標こそ重視されるべきであると思われる。
----------------	---

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○「自由記述」欄の記述内容はそのとおりだと思います。6.4は、6.1で社会に約束した「教育目標」を卒業以後どの程度実現できたかを見る項目ですので、そのような視点から「目標・指標」を再検討してはどうでしょうか。

## 【学内委員】

○目標2に示された基準の向上とGPA分布の関係についてご説明ください。また、卒業生の進路決定に関しては文学部だけでは力の及ばない部分があるのではないかと。

○文学部内副専攻については、加重負担感を少なくすることが期待されます。

○GPA低下の要因の解明は早急にする必要があります。

○「進路決定率」はこの項目における目標としては妥当性を欠いている可能性が高いという意見には賛成です。しかし、副専攻の減少、GPA低下は学生の勉学意欲の低下とも関係していると考えられ、「関学ブランド」が欲しい学生が増えている可能性を考える必要があるかもしれません。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★学位授与の基準向上に関してGPA分布を用いる理由は、GPAが幅広い単位取得状況を示していると考えられるためである。ここ数年の数値を見る限りにおいて、文学部卒業生のGPAは低下してきている。文学部内副専攻の履修者数、修了者数の明らかな減少傾向からも分かるように「人文学の幅広い教養」を高レベルで修得しようとする者も減ってきている。評価推進委員会からの評価では文学部内副専攻の問題解決策として「加重負担感を少なくすること」が挙げられている。ただし文学部内ではすでに幅広い授業科目の履修が可能であり、その結果として副専攻制が大きな魅力を有していないという可能性もある。文学部生として在るべき姿をディプロマ・ポリシー等で明確に示しつつ、副専攻制などの在り方を考えて行く必要がある。

## V. 本項目の評価指標

### <全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次 Semester ごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

### <個別的な指標>
